

令和5年度総合教育会議（1月19日(金)開催）

加賀田小学校と加賀田公民館の複合化による 教育コミュニティの活性化について

1. 複合化の目的

- 河内長野市では、「河内長野市公共施設個別施設計画」や「河内長野市学校のあり方の方針」を踏まえ、施設の老朽化や時代に適した施設機能の再編、学校の教育機能の活性化、そして、児童減少により小学校が小規模化していく中で、施設の有効活用を行う観点から小学校との複合化を進めています。
- 加賀田公民館はその先行モデルとして、令和7年春の加賀田小学校との複合化に向け、大人も子どもも通う学びの拠点である「教育総合コミュニティ」を目指した取組みを進めています。

2. 計画地の概要

計画位置図



3. 施設の基本的な考え方

(1) 将来像・コンセプト

□将来像

子どもも大人も学び・つながる公民館

□コンセプト

- ・ 特に目的なくふらっと立ち寄れる地域の居場所
- ・ 誰かに会いに行く
- ・ みんなで学ぶために集まる

- ・ 気軽に話ができる
- ・ 困りごと、悩み事を相談・共有できる
- ・ 小さな声に寄りそう
- ・ 地域の課題を共有する



- ・ 加賀田の歴史、文化を伝え、次世代につなぐ
- ・ 得た知識や技術、学びを共有
- ・ 地域の取組みや活動に利用できる場所の提供

公民館と学校を複合化することは・・・
⇒公民館の中だけではなく、学校の特別教室や運動場、体育館などを活用した、学校の課業時間外の子ども教室や、勉強・遊びの見守り、支援しやすい環境が整うということ。

公民館は学校とともに、地域ぐるみでの子どもの育みをさらに強化し、大人も子どもから学ぶことの大切さを感じられる取り組みを拡大する。

(2) 基本方針

多様なニーズに対応し、地域とつながる社会教育の場

- 子どもから大人まで 誰にでも開かれた、生きがいや楽しみが得られる学びの拠点
- 社会・地域の課題を学ぶ機会の創出と、学びのアウトプット 地域への還元
- 学びを通じて主体的なアクションを促進し、地域への愛着を醸成する場

① 社会教育事業の更なる充実

■社会的課題に対して必要な学習の機会を提供する。

人権（ジェンダー・LGBTQ・障害等）、環境（資源・エネルギー・気候変動等）、家庭教育支援、青少年健全育成、IT・デジタル化、日本と世界



手話を学び、加賀田小学校の子どもたちと交流。学校に出向き、手話で歌やエールの交換を行うなど。



LGBTQ+について、トランスジェンダーとして働きながら結婚、子育てする講師の経験談をもとに、参加者同士の話し合いを進めるなど。



買い過ぎや期限切れ、大量廃棄が食品ロスとして環境問題であることを学ぶとともに、施設や子ども食堂など、これを必要としているところに届ける取り組みを拡げるなど。



スマホでカメラやインターネット、地図の使い方などを業者のサポートにより学び、レベルアップへの意欲に繋げるなど。

■地域課題の解決に取り組む人材を育成する。

住民自治、地域防災、住環境改善（地域活力維持、高齢者や子どもの安全等）、ココロの安定、カラダの健康



地域の防災力アップを図るために、公民館の防災倉庫の中身を使った講座を実施し、自主防災組織や自治会の方々の交流を図るなど。



子育てを身近なところで支援するため、紙芝居やパネルシアターなどを実施し、みんなの笑顔で子育てに前向きになれるように取り組むなど。



高齢化とともに認知症が身近な問題となっていることから、認知症の本人や家族との接し方、予防や早期発見について学ぶなど。



健康寿命をいかに延ばすかが重要となる中、自分自身の心身の状態に向き合うフレイルと介護予防対策の講座を行うなど。

■子どもの体験活動の機会を提供する。

自然や科学、歴史や伝統文化、英語や異文化学習など



加賀田公民館周辺の環境を生かし、河原で水生生物の観察を行う自然体験教室を実施するなど。



色画用紙で作ったイモムシ競争など、様々なモノを自分で作って実験するおもしろ科学教室など。



公民館クラブなどによる子どもの文化体験活動として茶道体験の実施など。



子どもの頃から外国の文化や言葉にふれる機会を通じて、国際感覚や多文化共生社会を生きる力を身につける子どもえいご村の実施など。

② 多様なニーズに集うコミュニティづくり

■ 予期せぬ出会いや、多世代交流を育む場とする。

- ・ 気軽に立ち寄れる開放的な図書室
- ・ 多様な講座やイベントを通じた、参加者や地域住民、子どもたちの交流が生まれる取り組み



お母さんたちがヨガで活動しながら、子どもも公民館教室に通ったり、学校から一緒に帰ったりできるなど。



公民館には大人や子どもの様々な活動があり、その発表機会が数多くある。公民館に集う理由を創出し、地域住民が気軽に集い、交流する機会を作っていくなど。



リニューアルした図書室は居心地がよく開放的な場所とし、様々なイベントを行う場所として活用するなど。



地域のイベントで中学生が中心になるなど、本人の貴重な経験に加え、住民同士の交流が図られる取り組みとして、モルック体験を実施するなど。

■子どもも大人も安心して過ごせる場とする。

- ・明るくて温かいカフェのような空間
- ・放課後の子どもが家庭に帰るまでの時間を過ごせる空間
- ・図書室や掲示スペース、フリー空間、空き部屋も生かした地域の居場所



公民館に集う仲間同士が、さらに親交を深めたり、情報交換できる空間づくりを進めるなど。



大学と連携し、大学生と中学生と一緒に居心地の良い公民館についてワークショップを重ね、その実現を図るなど。



地域の住民や小中学生の声や思いなどを、掲示スペースを通じてコミュニケーションを図るなど。



放課後などに、子どもが過ごしやすい場となるよう、様々なアイデアや協力を得ていくなど。

■加賀田の地域特性や魅力に気づき、発信する場とする。

- ・加賀田地域のことを知り、歴史・文化・生活の知恵などを学び継承



修験道や行場、経塚について学び、昔から内外の多くの人が行き来してきた地域であることを考えるなど。



加賀田神社で連綿と引き継がれてきたことから地域の歴史や文化を紐解くなど。



地域で採取され、活用されてきた薬草がどのように活用されてきたのか、生活の知恵を学ぶなど。

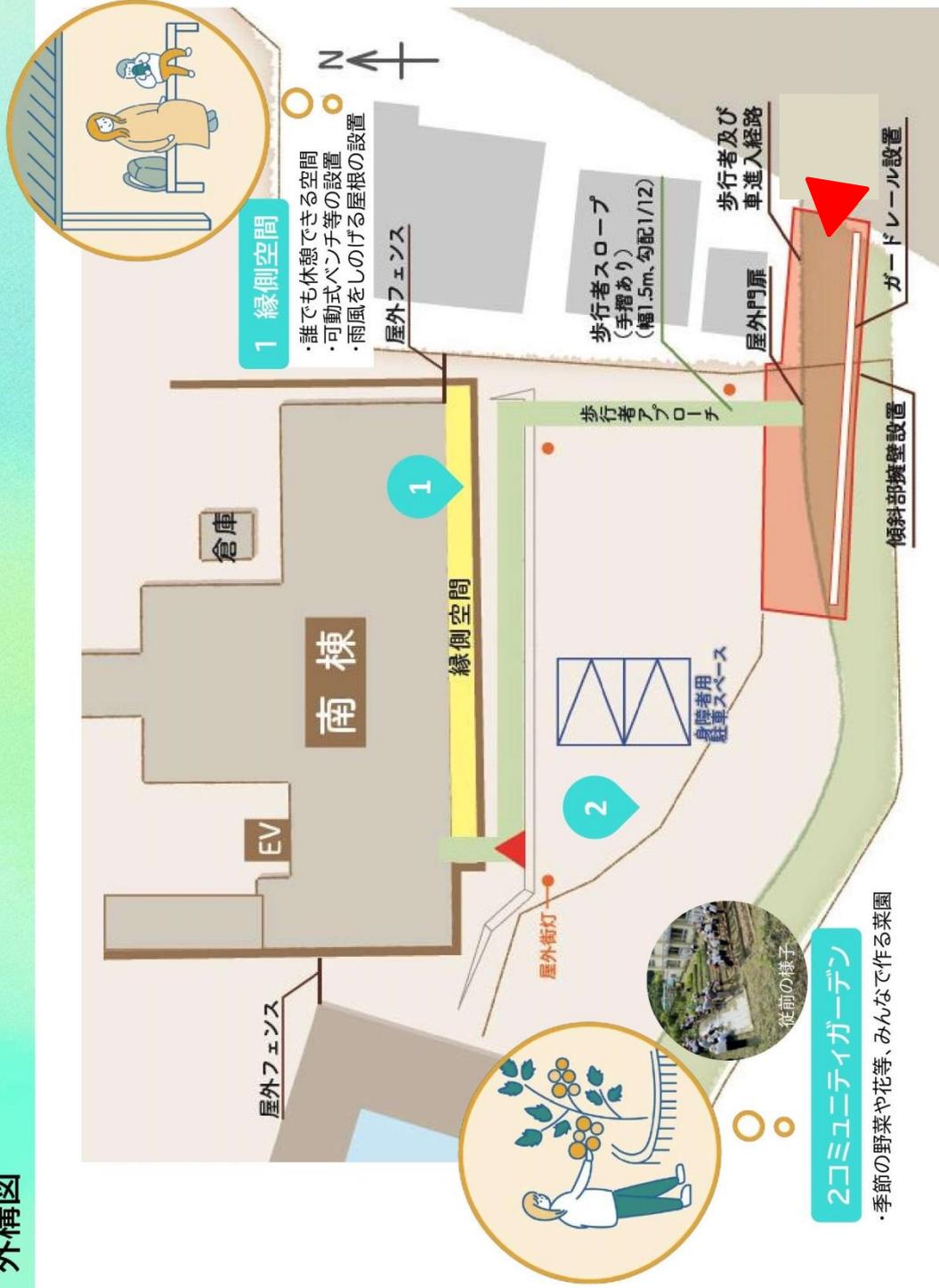
■地域の子ども育成団体などが活動しやすい場とする。

学校を拠点としている子ども育成団体などが活動しやすくなるように支援（ロッカー、コピー機、開館対応）

4. 加賀田公民館事業の拡充計画

令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> ・「加賀田地区のことを知る」を軸に据え、歴史や防災について、住民のみなさんと共有する講座を充実 ・人権映画や寿里苑で働くベトナム人について理解する講座を充実 ・子ども教室にて自然体験教室（年10回）を開催
令和6年度	<p>（複合化への試行）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>地域住民や利用者が「(仮称) ワクワク会議」に参加し、意見を出し合い、楽しみながら企画を実現</u> ・<u>「子ども教室」について、ダンス・自然体験に手話を加え拡充</u> ・<u>「子ども理科教室」を拡充</u> ・<u>「子ども英語村」を実施</u>
令和7年度	<p>（複合化スタート本格実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>土日祝の公民館まつりや公民館クラブの発表会において、学校の特別教室や体育館を活用し活動の場所を拡充</u> ・<u>学校の授業や課業時間内において、子どもと大人と一緒に活動する機会を拡充（ほのぼの楽校など）</u> ・<u>「子ども教室」や「子ども英語村」の更なる充実</u> ・<u>公民館が放課後などに子どもの居場所になれるように、子ども育成団体や地域住民などの協力を得ていく。</u>

外構図



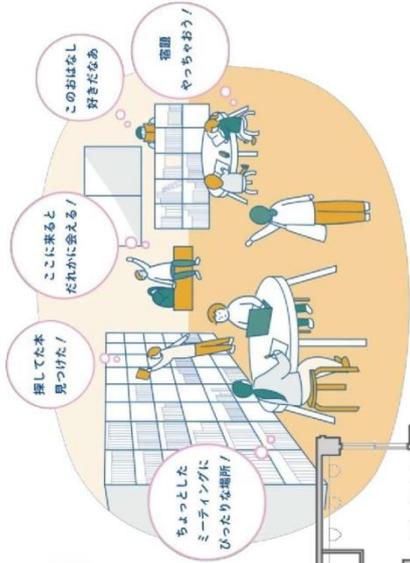
公民館機能(1階)

3 入口ホール:インフォメーション

- ・ 受付・案内
- ・ 公民館クラブや公民館行事、その他の活動、イベント等の紹介
- ・ 作品等の展示

4 コミュニティホール

- ・ 本棚のあるカフェのようなオープンな空間
- ・ 休憩、読書、クラブ活動、講座、イベント、自習、コワーキング等多用途に対応



5 多目的室・講座室

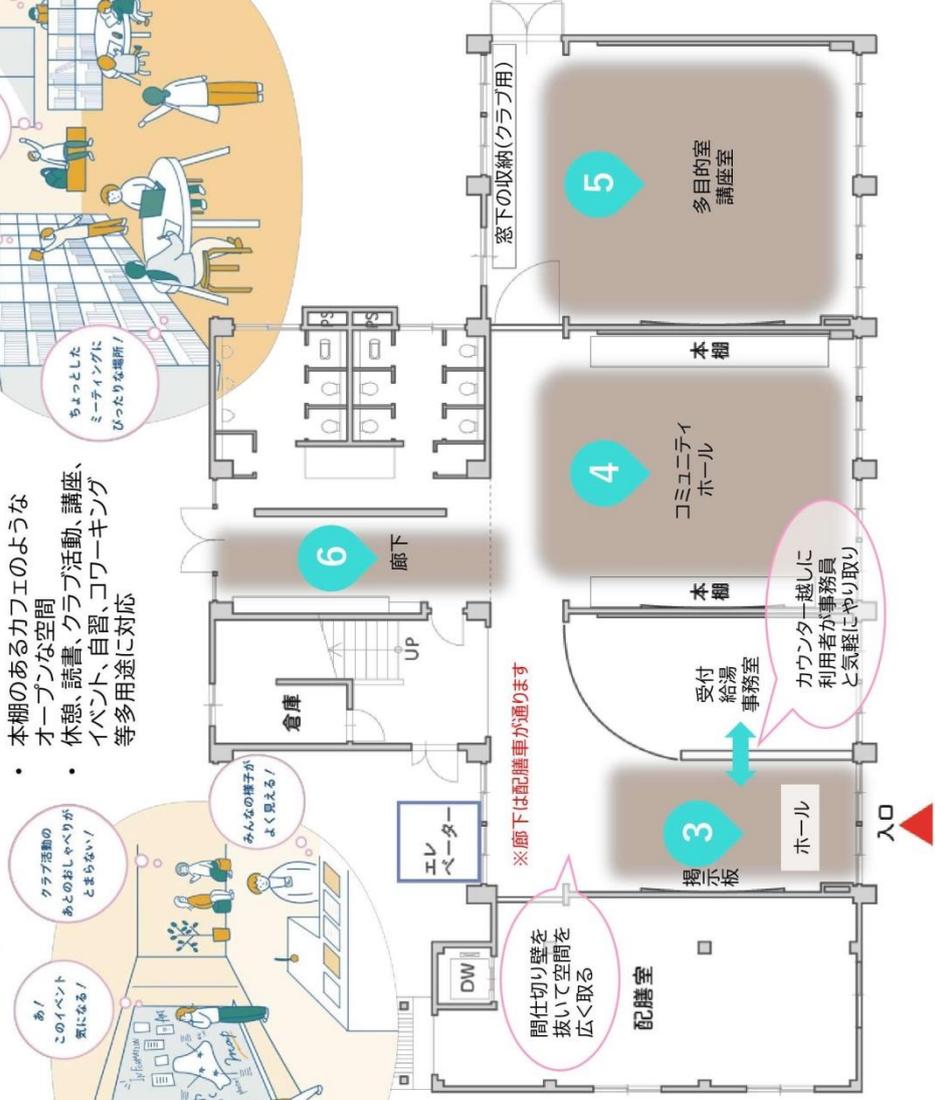
- ・ クラブ活動、公民館講座等の利用

6 廊下:展示・休憩

- ・ 公民館活動の展示
- ・ 本棚
- ・ 休憩スペース(ベンチ等)

本棚

- ・ 公民館内に本棚、読書スペースを点在させ、施設全体を図書館としても活用



公民館機能(2階)

7 多目的ホール

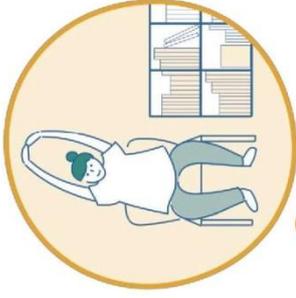
- クラブ活動、講座、イベント等多用途に対応
- 予約が無い時は自習、コワーキング、読書等のスペースとして活用



加賀田の広場④の様子
(教室を利用した社会実験イベント)

8 アトリウム:多目的空間

- フリースペース:体操、イベント、展示等、多目的ホールのにじみだし
- 休憩スペース:ベンチ等を置いて、休憩できる空間



9 会議室・倉庫

- 既存の利用団体が活動を継続できるようにスペースを確保